

第2章 事業報告

本事業では、先端的研究と研究者養成において指導的な役割を担う海外8大学とコンソーシアム協定を締結し、協定校と協力して国際的に活躍しうる人材を育成するための様々な活動を行った。主な活動は以下の3つに集約される。

- ・ **コンソーシアム科目の開講**

テーマに応じて協定校から教員と若手研究者を招聘し、協定校と本学の教員が共同で専門科目を担当した。この講義に基づいて、本学大学院生と協定校若手研究者は、共同研究を行った。また、協定校若手研究者、本学大学院生の個別研究指導も、協定校と本学の教員が協力して行った。

- ・ **ワークショップの開催**

大学院生、若手研究者が国際共同研究を遂行するために、相互理解を深め、意見交換をするための場として、ワークショップを協定校と協力して開催した。協定校と本学の教員も参加し、共同研究のテーマ等について示唆を与えた。

- ・ **協定校訪問**

本学大学院生が、共同研究を推進するために協定校を訪問し、協定校教員の指導の下で、集中的に作業を行った。また、協定校の授業や協定校主催のワークショップにも参加し、研究テーマの相互理解を深めた。本学の教員も、コンソーシアム科目や大学院生の共同研究指導の打ち合わせのために、協定校を訪問した。

本章ではこれらの活動内容の詳細を報告する。まず2.1節で協定校と本事業に関わった研究者を紹介し、次に2.2節で「活動リスト」を提示する。2.3節では、言語学領域におけるそれぞれの具体的な活動内容を報告し、2.4節では、日本語教育領域における活動内容を詳しく報告する。2.5節では、本事業採択に先立って行われたコンソーシアム活動について簡単に記述する。

2.1. 協定校紹介

国際的な連携に基づく研究者養成プログラム設立の第一歩として、本学は海外の8大学と、大学院教育における協力とそのための合同セミナーの開催を核とするコンソーシアム協定を締結した。以下が本事業に参加した8大学である。

ケンブリッジ大学 (イギリス)

University of Cambridge

イギリス・ケンブリッジ市にあるケンブリッジ大学は、長い歴史を持つ一方で、多くの分野で最先端レベルの研究活動を行っており、古さと新しさを合わせ持つ教育・



研究機関として知られている。言語学科もその点では変わりがなく、ヨーロッパ諸言語の史的变化の研究、言語間差異の比較研究を活発に推進すると同時に、心理言語学分野の研究も行われ、言語間比較研究を中心とした複数の対照言語学プロジェクトも常に進行している。大学院生の間では、音声学的、統語論的観点からの歴史言語学の研究が特に活発である。

本事業のコンソーシアム科目を担当した Ian Roberts 教授は、ゲルマン語、ロマンス語、ケルト語の広範な言語データをもとに、共時的、通時的な統語現象の比較研究を行い、言語理論の発展に大きく貢献してきた理論言語学者である。若手研究者としては、ゲルマン語文構造の研究を専門とする Theresa Biberauer 研究員と大学院生が本事業に参加した。大学院生は、ギリシア語の自由関係節の研究を行っている Lila Daskalaki 氏、ギリシア語とロマンス語の接語の比較研究を行う Marios Mavrogiorgos 氏、古代アイルランド語の統語音韻現象を研究する Glenda Newton 氏、ミニマリスト理論の研究者である Marc Richards 氏、語彙範疇決定のメカニズムを提案する Edward Wilford 氏の 5 名であった。



コネチカット大学 (アメリカ)

University of Connecticut

アメリカ・コネチカット州スターズの緑豊かな自然に囲まれたコネチカット大学は、アメリカ東部ニュー



イングランド地域における最大規模の州立大学である。同大学言語学科は、理論言語学分野、心理言語学分野において主導的立場にあり、生成文法の発展に大きく寄与してきた。在籍する大学院生も理論言語学、言語獲得理論の分野で活発な研究活動を行っている。70年代以来不断に優秀な研究者を輩出し続け、大学院教育においても定評がある。

本事業では、統語論、特に極小理論の研究で重要な実績をあげ、言語理論の発展に貢献してきた Željko Bošković 教授、アメリカ手話研究の第一人者である Diane Lillo-Martin 教授、不定詞構文の対照言語学研究で知られる Susanne Wurmbrand 教授が本学におけるコンソーシアム科目を担当した。また、第一言語獲得のメカニズムに関して独自の理論を打ち出している William Snyder 教授も本事業に参加し、ワークショップで発表を行うとともに、大学院生の研究指導を行った。若手研究者として本事業に参加した大学院生は 10 名にのぼる。彼らの研究分野は多岐にわたり、Duk-Ho An 氏は英語、韓国語、日本語などの統語的、音韻的な現象の研究、Ana C. P. Bastos 氏はブラジルポルトガル語の主題化の研究、Jeff Bernath 氏は普遍文法の観点からアメリカ手話の獲得の研究を行っている。Jean Crawford 氏は複合述語文の統語的・意味的研究とその獲得メカニズムの検証、Natalia



Fitzgibbons 氏はロシア語の否定一致と量化詞の研究を行い、澤田剛氏は日本語のコピュラにまつわる述語形態を分析し、田口茂樹氏は日英語の補文化辞の削除現象に取り組んでいる。田中拓郎氏は、数量詞のさまざまな側面に関心を持ち、Natalia Rakhlin 氏は英語母語獲得に見られる「量化詞拡散現象」を、Sandra K. Wood 氏は手話の統語論、形態論、および獲得を専門としている。

ハイデラバード国立言語研究所 (インド)

EFL University

インド中南部アーンドラ・プラデーシュ州の州都ハイデラバードに位置する国立言語研究所は、言語研究を専門に行うインド随一の高等専門教育・研究機関で、ドラヴィダ系言語、インドアリア系言語の記述的研究に基づいて積極的に言語理論の発展に寄与している。2007年10月に、それまでの Central Institute of English and Foreign Languages (CIEFL) から English and Foreign Languages University (EFL University) に改称し、2008年9月からは、学部教育も開始する。



本事業でコンソーシアム科目を担当した K.A. Jayaseelan 教授は、マラヤラム語研究の第一人者で、疑問文、焦点化、格、かき混ぜ構文、代名詞解釈の研究から言語理論の発展に長年貢献してきた。また、ワークショップに参加した R. Amritavalli 教授と P. Madhavan 教授はカナダ語、マラヤラム語の現象を統語的、意味的、形態的に分析し、様々なトピックで著書がある。本学を訪れた若手研究者には、マラヤラム語のさまざまな現象の統語的意味的分析を手がけている M.T. Hany Babu 氏、マラヤラム語の与格名詞句の詳細な研究を進めている Mythili Menon 氏、ヒンディ語-ウルドゥ語とアングガ語の比較研究を行う Tasneem Firdaus Ali 氏、テルグ語統語論の研究者である M. Keerthi Azad 氏、ヒンディ語の心理述語構文、受け身構文の分析を行う Vineet Chaturvedi 氏、バングラ語、ヒンディ語、マラヤラム語の所有構文、心理述語構文、存在構文の比較検討を行う Paroma Sanyal 氏がいる。Hany Babu 氏を除く5名が大学院生である。

同徳女子大学校 (韓国)

Dongduk Women's University

韓国ソウル市の中北部、教育の街として知られる城北区に位置する同徳女子大学校は、英語や日本語をはじめとする外国語教育に定評がある。様々な新しいメディアを積極的に活用した優れた外国語教育が行われている一方、研究面の活動も活発であり、応用言語学、第二言語習得論のバックグラウンドを持った日本語教員の養成や言語教育研究者の養成にも力を入れている。韓国外の大学との共同集中講義の開講にも実績があり、優れた成果を上げている。



本事業では、過去に韓国日本学会会長を務めるなど、韓国日本語教育界をリードし、教

育者としても定評のある李徳奉教授がコンソーシアム科目を担当した。また、若手研究者（大学院生）として、公教育機関外での日本語教育を研究する張恵貞氏、韓国における日本語学習スタイルの分類と比較を手がける張榮花氏、韓国の高商用日本語教科書の分析を行う金秀映氏、否定丁寧形の使用法と教授法を研究する金璇姫氏、日韓学習辞書の充実というテーマに取り組む水口里香氏に加え、会話授業の学習形態を研究する倉持香氏、交流型学習の分析を行う西岡麻衣子氏が本事業に参加した。

ベルリン自由大学（ドイツ）

Freie Universität Berlin

ドイツ・ベルリンの南西部、田園風景の広がるのどかな郊外に位置するベルリン自由大学は近代的、国際的な自由な学風で学生数も多く、ドイツで最も大きい大学の一つである。人文学、自然科学の分野での研究が盛んで、ドイツ・エリート9大学の一つとして選出された。国際交流も積極的に行われている。ドイツ語圏の大学では初の「日本語教職課程」の設置にむけて準備が行われており、2008年冬学期から開講が予定されている。



本事業でコンソーシアム科目を担当した山田ボヒネック頼子教授は、文化と言語教育の関係を研究すると同時に、欧州での日本語教師養成に力を入れ、様々な学会、ワークショップの開催に尽力し、ドイツにおける日本語教育で指導的な立場にある。また、本事業のシンポジウムで基調講演を行った Irmela Hijiya-Kirschner 教授は現代日本文学と西洋文学との比較研究において大きな貢献をし、日本を学術的に研究するドイツ・日本研究所の前所長でもある。ベルリン自由大学からの若手研究者として、相づちと言語習得の関係を研究する Berthold Frommann 氏、継承日本語の習得の研究を行う三輪聖氏、日独比較の観点から非言語コミュニケーションの諸側面に関心を寄せる Jeannette Schueler 氏の3名の大学院生が本事業に参加した。

国立清華大学（台湾）

National Tsing Hua University

台北の北西部、「台湾のシリコンバレー」とも称される新竹市にキャンパスをもつ国立清華大学は理学、工学、生命科学、原子科学等の分野で高い評価を受ける台湾有数の研究大学である。理論言語学の分野でも、東アジア諸語の研究において重要な役割を果たしてきた。大学院生の関心も多岐に渡り、中国語の諸方言の研究、言語の歴史的变化の研究、台湾で話されるオーストロネシア諸言語の研究、心理言語学、脳生理学的観点からの言語研究が積極的に行われている。



本事業でコンソーシアム科目を担当した W.-T. Dylan Tsai 教授は、統語論、意味論の両領域で著名であり、特に疑問文の研究で重要な功績がある。Tsai 教授に加え、軽動詞構文など中国語の節構造に関わる研究が広く知られている T.-H. Jonah Lin 教授、音響音声学者として中国語、台湾語の音声学的側面に理論的実験的見地から取り組む Yueh-Chin Chang 教授も本事業に参加した。若手研究者（大学院生）としては、時制を形態的に顕在

化しない言語の節構造を研究対象とする Ting-Ting Christina Hsu 氏、中国語や日本語の疑問文の比較研究を行う Barry C.-Y. Yang 氏、削除現象と軽動詞構文について研究を進める Liching Livy Chiu 氏、台湾現地語プユマ語の記述、分析を行う Chao-Lin Li 氏、動詞と補文構造を研究テーマとする Chuan-Hui Ally Weng 氏、台湾現地語のアミ語の音韻研究を行う Shih-Chi Stella Yeh 氏、中国語の副詞と文構造を研究の対象とする Xin-Xian Rex Yu 氏、中国語データをもとに心理言語学研究を行う Chen-Hsiu Grace Kuo 氏、そして関係節の比較研究を行う Hui-Chin Joyce Tsai 氏が本事業に参加した。



ニューサウスウェールズ大学 (オーストラリア)

University of New South Wales

オーストラリア・シドニーにあるニューサウスウェールズ大学は、学術研究、教育の両面で、世界レベルの高い評価を得ている公立大学である。海外の大学との交流も盛んで、多くの研究機関と学術協定を結び、幅広い実績がある。工学部など科学系の分野の研究が盛んだが、日本語教育でも評判が高く、オーストラリア最大の日本語教育プログラムを擁し、日本研究や教員養成に関してさまざま学会、研究会を主催している。



本事業でコンソーシアム科目を担当したトムソン・木下千尋教授は地域コミュニティとの交流の中で言語教育を行う独自のカリキュラムを作成し、地域に密着した教員養成を行っている。若手研究者（大学院生）として、直接法による日本語教育を行う尾島ヴァンダメイ幸香氏、第二言語習得における言語転移を研究する加藤稔人氏、日本の大学における留学生の講義理解の諸側面を研究する武田春子氏、そして日本語授業の社会文化アプローチによる分析を試みる大原哲史氏が本事業に参加した。

シエナ大学 (イタリア)

University of Siena

イタリアのトスカーナ州に位置するシエナ市は、フィレンツェから1時間ほどの場所にあり、今も中世の趣を残す町である。本学とコンソーシアム協定を結んだシエナ大学は13世紀に設立され、ヨーロッパでも最も古い大学の一つとされる。言語学の研究は、Centro Interdipartimentale di Studi Cognitivi sul Linguaggio (認知科学言語研究センター)を中心に認知科学、言語哲学の分野と連携して進められており、ヨーロッパの研究拠点として高い評価を受けている。



本事業には、Luigi Rizzi 教授と Adriana Belletti 教授が関わった。コンソーシアム科目を担当した Rizzi 教授は、1970年代後半から現在までイタリア語統語論、ひいては生成比較統語論の分野を文字通りリードしてきた言語学者で、言語獲得の研究にも造詣が深い。Belletti 教授は、非対格性、動詞移動、一致現象などの領域で重要な業績があり、第二言語習得にも関心を寄せている。本事業においてはビデオ講義を行った。若手研究者としては、イタリア語の第二言語習得について実験的な研究を進めている Elisa Bennati 氏、イ

イタリア語の関係節化について心理言語学的研究を行う Irene Utzeri 氏、イタリア語の対照焦点現象を検討し節構造を研究する Giuliano Bocci 氏、計算言語学の視点から文構築モデルの可能性を追求する Cristiano Chesi 氏、ゲルマン系言語の V2 現象の性質と分布を統語論的、意味論的に検証する Irene Franco 氏、ブラジル・ポルトガル語に見られる音形を持たない埋め込み文主語の性質解明を主な研究課題とする Simone Guesser 氏、量化表現、否定表現作用域の獲得を研究する Vincenzo Moscati 氏、第二言語習得、特にイタリア語話者のドイツ語代名詞習得を比較対照的に分析する Giulia Bianchi 氏の 8 名の大学院生が本事業に参加した。



2008年2月2日 シエナ-清華-南山共同ワークショップより

2.2. 活動リスト

2006年(平成18年)度

9月11日～14日 国立清華大学/南山大学コンソーシアム集中講義

人間文化研究科言語科学専攻主催 (於：南山大学)

科目名は「統語論研究」。国立清華大学の W.-T. Dylan Tsai 教授と本学の斎藤衛教授、鈴木達也教授が共同で「演算子の移動と解釈」をテーマとするセミナーを開講した。国立清華大学の大学院生4名(Barry Chung-Yu Yang 氏、Xin-Xian Rex Yu 氏、Liching Livy Chiu 氏、Shih-Chi Stella Yeh 氏)、本学の大学院生7名を含む約20名が参加し、担当教員がそれぞれ講義を行った後、参加者全員によるディスカッションが行われた。

9月14日～15日 国立清華大学/南山大学共同ワークショップ

人間文化研究科言語科学専攻主催、言語学研究センター共催 (於：南山大学)

"Movement and Interpretation" (移動と解釈) をテーマにワークショップを開催し、清華大の教員1名、大学院生3名、本学の教員2名、大学院生1名がそれぞれ1時間の研究発表を行った。参加者は25名であった。

(14日)

3:20 Mamoru Saito

EPP and the Notion of Subject

Xin-Xian Rex Yu

Evaluative Adverbs in Mandarin Interrogatives

(15日)

9:30 Tatsuya Suzuki

On Indirect Questions of English Gerunds

Barry C.-Y. Yang

On Wh-nominal/adverb Interaction and Left Periphery

12:30 Liching Livy Chiu

A Focus Movement Account on Multiple Sluicing in Mandarin Chinese

Kensuke Takita

Focus and Wh Features in Interrogative C

15:00 W.-T. Dylan Tsai

T-feature Checking and Temporal Adjuncts in Formosan Languages

Tsing Hua - Nanzan Joint Workshop on Movement and Interpretation

主催：南山大学大学院人間文化研究科言語科学専攻 共催：南山大学言語学研究中心
文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブ補助事業

2006年9月14日(木)
南山大学名古屋キャンパス(棟1)随時特別合同研究室
3:20 - 5:30
Mamoru Saito (Nanzan University)
"EPP and the Notion of Subject"
Xin-Xian Yu (National Tsing Hua University)
"Evaluative Adverbs in Mandarin Interrogatives"

2006年9月15日(金)
南山大学名古屋キャンパス(棟1)随時特別合同研究室
9:30 - 11:40
Tatsuya Suzuki (Nanzan University)
"On Indirect Questions of English Gerunds"
Barry Yang (National Tsing Hua University)
"On Wh-nominal/adverb Interaction and Left Periphery"
12:30 - 2:40
Li-Ching Chiu (National Tsing Hua University)
"A Focus Movement Account on Multiple Sluicing in Mandarin Chinese"
Kensuke Takita (Nanzan University)
"Focus and Wh Features in Interrogative C"
3:00 - 5:10
W.-T. Dylan Tsai (National Tsing Hua University)
"T-feature Checking and Temporal Adjuncts in Formosan Languages"
General Discussion

予約不要・入場無料
お問い合わせは南山大学言語学研究中心までお願いします。
〒466-8672 名古屋市昭和区山田町18 南山大学言語学研究中心
E-mail: ling@ic.nanzan-u.ac.jp Tel: 052-832-3110 内線 724

10月14日～15日 同徳女子大学校/ニューサウスウェールズ大学/南山大学共同ワークショップ

人間文化研究科言語科学専攻主催 (於：南山大学)

同徳女子大学校、ニューサウスウェールズ大学と共同でワークショップを開催した。同徳女子大、ニューサウスウェールズ大、本学の教員による講演に加え、各大学の大学院生が研究発表を行った。学外の研究者を含め24名が参加した。

(14日)

10:10 鎌田 修

「接触場面研究の意義と課題」

11:00 齊藤 一夫

「談話標識『そうですね』について—そのコミュニケーション機能と日本語教育における指導上の問題点」

11:30 張 恵貞

「社会人に対する日本語教育の問題点」

13:30 李 徳奉

「総合的日本語教育の認知的効果」

14:20 加藤 稔人

「中国語話者の語彙習得」

14:50 川崎 直子

「第二言語習得における否定的フィードバックに関わる一考察」

15:20 金 秀映

「韓国高校日本語教科書の分析」

16:20 トムソン・木下 千尋

「UNSW の研究の動向」

17:10 武田 春子

「講義理解上の問題とストラテジー」

17:40 坂本 正

「発達上の誤用とは？」

(15日)

10:00 徐 毓瑩

「日本語の視点表現の習得について」

張 栄花

「韓国日本語学習者の学習スタイルの分類」

尾島 ゆきか

「ら抜き動詞の教育現場での位置づけ」



10月21日～22日 ハイデラバード国立言語研究所/南山大学共同ワークショップ

人間文化研究科言語科学専攻主催、言語学研究センター共催（於：南山大学）

"Syntax-Semantics Interface" をテーマにワークショップを開催した。ハイデラバードの教員1名、大学院生3名、本学の教員2名、大学院生1名がそれぞれ1時間の研究発表を行い、また今後の研究に関するディスカッションが本学齋藤衛教授、村杉恵子教授、大学院生の富士千里氏、瀧田健介氏を中心に行われ、共同研究計画が多数提案された。参加者数は24名であった。

(21日)

10:00 Mamoru Saito

Opening Remarks

P. Madhavan

Transitivity Alternation and the Layered VP

14:00 Hiroshi Aoyagi

Discourse Effects, Case Marking and Scrambling in OV Languages

Vineet Chaturvedi

Experiencer and Possessor Constructions in Hindi: A Lexical Relational Account

(22日)

- 10:00 Paroma Sanyal
The Experiencer Construction in Bangla
 Masumi Aono
Wh-phrases, Negative Polarity Items and Anti-Superiority Effects in Japanese
- 14:00 Tomohiro Fujii
Controlling Japanese Experiencer
 K. A. Jayaseelan
Experiencer as Locative



12月2日～3日 ケンブリッジ大学/国立清華大学/南山大学共同ワークショップ
 人間文化研究科言語科学専攻主催、言語学研究センター共催（於：南山大学）

"Word Order and Functional Categories" のテーマで協定校と共同ワークショップを開催した。本学の大学院生2名、言語学研究センター研究員1名に加え、ケンブリッジ大学からの参加者（教員1名、大学院生2名）、国立清華大学からの参加者（教員1名、大学院生2名）がそれぞれ1時間の研究発表を行った。また、大学院生と教員に分かれてディスカッションを行い、今後の共同研究の内容および事業推進の方針が議論された。38名が参加した。

(2日)

- 10:00 Tzong-Hong Jonah Lin
Multiple Modal Constructions in Mandarin Chinese and their Temporal Properties
 Kensuke Takita
NP-internal Honorification and N'-deletion
- 13:15 Edward Wilford
Categorial Specification and Celtic Verbal-Nouns
 Glenda Newton
Exploring the Nature of the Syntax-Phonology Interface: A Post-syntactic Account of the Old Irish Verbal System
 Ian Roberts
Issues in the Analysis of Welsh VSO Orders



(3日)

- 10:00 Chuan-Hui Ally Weng
Causative, Permissive, and Yielding: The Mandarin Chinese Verb Rang

Chao-Ling Li

Adverbial Expressions and Pronoun Cliticization in Puyuma

13:45 Atsushi Ito

On High and Low Goals in Japanese Ditransitives

Yuji Takano

Ordering Internal Arguments: Scrambling, Base Generation, or Both?

1月30日～31日 ベルリン自由大学/南山大学共同ワークショップ

人間文化研究科言語科学専攻主催（於：南山大学）

ベルリン自由大学と本学が共同で日本語教育に関するワークショップを開催した。本学の大学院生5名とベルリン自由大学の大学院生3名が現在進行中の研究プロジェクトについて発表し、活発な意見交換が行われた。本学教員2名、ベルリン自由大学の教員1名による講演も行われた。またグループディスカッションでは、両大学の大学院生が今後の共同研究の課題について話し合った。29名が参加した。

(30日)

10:00 坂本 正

「ことばの習得をめぐる」

11:00 川崎 直子

「第二言語習得における否定的フィードバックの一考察」

13:15 三輪 聖

「ドイツにおける継承日本語教育の現状と展望—接触場面研究的アプローチからの貢献—」

14:00 徐 毓瑩

「日本語視点表現の習得について」

15:00 山田ボヒネック 頼子

「接触場面研究と教材化:学際的アプローチの理論と実践—『三つ子の魂=母文化=暗黙知』の解体から学びとる—」

15:40 Berthold Frommann

「ベルリンにおける日本語接触場面研究:『相づち頻度数』と『日本語発話能力到達度』の相関に関する一考察」

16:35 齊藤 一夫

「談話標識『そうですね』のコミュニケーション機能について」

17:25 Jeannette Schueler

「非言語コミュニケーションにおける『日独混合体』の実例—『名古屋におけるドイツ語接触場面』観察・分析から」

(31日)

10:00 鎌田 修

「ありのままの学習者言語と接触場面分析」

10:40 坂大 京子

「教師の訂正フィードバックと学習者のアップテイク—初級クラスと中級クラスにおいて—」

11:20 山崎 紀子

「接触場面の教材化—ポーランドで望まれる接触場面教材とは—」

南山大学日本語教育領域
主催: 南山大学大学院人間文化研究科言語科学専攻
文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブ補助事業

ベルリン自由大学-南山共同ワークショップ
第1日目: 1月30日(火) 12:00-17:00

10:00-11:00 坂本正(南山) 講演「ことばの習得をめぐる」
11:00-11:45 川崎直子(南山) 講演「第二言語習得における否定的フィードバックの一考察」
13:15-14:00 三輪聖(FU) 講演「ドイツにおける継承日本語教育の現状と展望—接触場面研究的アプローチからの貢献—」
14:00-14:45 徐毓瑩(南山) 講演「日本語視点表現の習得について」
15:00-15:40 山田ボヒネック頼子(FU) 講演「接触場面研究と教材化:学際的アプローチの理論と実践—『三つ子の魂=母文化=暗黙知』の解体から学びとる—」
15:40-16:25 Berthold Frommann(FU) 講演「ベルリンにおける日本語接触場面研究『相づち頻度数』と『日本語発話能力到達度』の相関に関する一考察」
16:35-17:25 齊藤一夫(南山) 講演「談話標識『そうですね』のコミュニケーション機能について」
17:25-18:10 Jeannette Schueler(FU) 講演「非言語コミュニケーションにおける『日独混合体』の実例—『名古屋におけるドイツ語接触場面』観察・分析から—」

第2日目: 1月31日(水) 12:00-17:00

10:00-10:40 鎌田修(南山) 講演「ありのままの学習者言語と接触場面分析」
10:40-11:20 坂大京子(南山) 講演「教師の訂正フィードバックと学習者のアップテイク—初級クラスと中級クラスにおいて—」
11:20-12:00 山崎紀子(南山) 講演「接触場面の教材化—ポーランドで望まれる接触場面教材とは—」

コンソーシアム協定記念シンポジウム
2月4日(日) 12:00-17:00 大会議室

13:00-13:10 開会式 首席客員学芸員 研究科長
13:10-14:00 基調講演 Prof. Dr. Irmela Hijiya-Kirschnerreit
「異文化理解は可能か不可能か?—異文化間コミュニケーションにおける課題」
14:10-18:00 パネルディスカッション「世界的視野に立つ日本語教育の研究と実践」
司会 坂本 正(南山大学)
14:10-15:40 各パネリストの発表
李 徳奉(同徳女子大学校)「広域専門家を養成するための日本語教育のありかた」
トムソン・木下千尋(ニューサウスウェールズ大学)「オーストラリア日本語を考える」
山田ボヒネック頼子(ベルリン自由大学)「欧州 CEFR 言語教育論を基盤に構築する21世紀の日本語教育学—接触場面研究からの貢献—」
鎌田 修(南山大学)「産の共有化—接触場面の教材化とはどこまで可能か—」
16:00-17:00 フォアとのやりとり
17:00-17:30 パネリスト間でのまとめと総括

お問い合わせ: 〒466-8673 名古屋市中区山王町18
南山大学人間文化研究科 大学院 GP 事務局
E-mail: ling-gp@nanzan-u.ac.jp Tel: 052-932-3110 内線 526

2月1日～3日 **ベルリン自由大学/南山大学コンソーシアム集中講義**

人間文化研究科言語科学専攻主催（於：南山大学）

ベルリン自由大学の山田ボヒネック頼子教授と本学の鎌田修教授が共同で「接触場面研究」に関するセミナー（「言語習得論研究 B」）を開講した。ベルリン自由大学の大学院生 3 名 (Berthold Frommann 氏、 Jeannette Schueler 氏、 三輪 聖氏)、本学の大学院生 17 名を含む 23 名が参加し、担当教員がそれぞれ講義を行った。講義の後、参加者はグループに分かれて、接触場面をビデオで収録・分析し、教材化を試みた。各グループが成果を発表して、よりよい接触場面の教材化について議論を深めた。

2月4日 **日本語教育領域 4 大学コンソーシアム協定締結記念シンポジウム**

人間文化研究科言語科学専攻主催（於：南山大学）

ベルリン自由大学、ニューサウスウェールズ大学、同徳女子大学校、本学のコンソーシアム協定締結を記念して日本語教育領域でシンポジウムが行われた。ベルリン自由大学の Irmela Hijiya-Kirschnerit 教授による基調講演の後、「世界的視野に立った日本語教育の研究と実践」をテーマに各大学の教員がパネルディスカッションを行った。フロアからの質問も活発で、充実したディスカッションが行われた。参加者数は 30 名であった。



13:10 Irmela Hijiya-Kirschnerit

「異文化理解は可能か不可能か？—異文化コミュニケーションにおける齟齬」

14:10 李 徳奉

「広域専門家を養成するための日本語教育のありかた」

トムソン・木下千尋

「『オーストラリア日本語』を考える」

山田ボヒネック頼子

「欧州 CEFR 言語教育論を基盤に構築する 21 世紀の『日本語教育学』—接触場面研究からの貢献」

鎌田 修

「個の共有化 —接触場面の教材化はどこまで可能か—」

2月16日～20日 コネチカット大学/シエナ大学/南山大学コンソーシアム集中講義
人間文化研究科言語科学専攻主催（於：南山大学）

コネチカット大学の Diane Lillo-Martin 教授、シエナ大学の Luigi Rizzi 教授、本学の村杉恵子教授が共同で「言語習得研究と普遍文法」に関するセミナー（科目名：「言語理論研究 B」）を開講した。コネチカット大学の大学院生 4 名 (Jeff Bernath 氏、Jean Crawford 氏、Natalia Rakhlin 氏、Sandra Wood 氏)、シエナ大学の大学院生 4 名 (Elisa Bennati 氏、Giuliano Bocci 氏、Cristiano Chesi 氏、Irene Utzeri 氏)、ハイデラバード国立言語研究所の大学院生 2 名 (Tasneem Firdaus Ali 氏、Mythili Menon 氏)、ケンブリッジ大学の大学院生 2 名 (Lila Daskalaki 氏、Marios Mavrogiorgos 氏)、本学の大学院生 7 名を含む 31 名が受講し、担当教員がそれぞれ講義を行った後、参加者全員でディスカッションが行われた。

2月20日～21日 コネチカット大学/シエナ大学/南山大学共同ワークショップ
人間文化研究科言語科学専攻主催、言語学研究センター共催（於：南山大学）

"Linguistic Theory and Language Acquisition" をテーマにワークショップを開催し、コネチカット大学の教員、大学院生 3 名、シエナ大学の教員、大学院生 3 名、本学の教員、大学院生 3 名が研究発表を行った。また、ポスターセッションの時間も設け、本学大学院生と協定校大学院生による 12 件の研究がポスターで発表された。参加者は一般からの参加を含め、60 名程であった。



(20日)

9:30 *Opening Remarks*

William Snyder

Children's Grammatical Conservatism: Implications for Linguistic Theory

Giuliano Bocci

On the Criterial Positions in the Left Edge in Italian: Evidence for the Syntactic Encoding of Contrastive Focus

Tomohiro Fujii and Kensuke Takita

Wh-adverbials, their Island-(in)sensitivity and the Role of Demonstratives in Wh-in-situ Licensing

13:30 Yoshie Kabuto

The Acquisition of Naze 'why' and Dooyuu riyuu-de 'for what reason' in Japanese

- Cristiano Chesi
7(±2) Reasons for Building Phrase Structures Top-down from Left to Right
- 15:30 Natalia Rakhlin
A Pragmatic Account of Q-spreading
- Adriana Belletti
Pronouns and the Edge of the Clause
- (21 日)
- 9:00 Sandra Wood
Degrees of Resiliency in Language Development
- Keiko Yano
The Structure of Japanese Potential (R)eru Construction: A Study in Syntax, Learnability, and Acquisition
- ポスター発表
- Tasneem Firdaus Ali
Micro-parametric Variation: A Study in Standard Hindi-Urdu and Angika
- Jeff Bernath
Examining Impoverished Input: Case of Nativization
- Elisa Bennati
Pronouns in Adult L2 Acquisition: Evidence from L2 Near-native Italian
- Jean Crawford
Japanese Children's Knowledge of Causation and Event Structure
- Evangelia Daskalaki
Free Relatives as Complex DPs: Rethinking the Head vs. Comp Account Controversy
- Ting-Ting Christina Hsu
Finiteness in a Language without Morphological Tense
- Marios Mavrogiorgos
C-agreement and EPP: The Two Factors Regulating Enclitics in Greek
- Mythili Menon
The Existence of Experience, Possession and Custody in Malayalam
- Masato Niimura
A Syntactic Analysis of Copula Sentences
- Irene Utzeri
The Production and the Acquisition of Subject and Object Relative Clauses in Italian: A Comparative Experimental Study
- Eriko Watanabe, Chisato Fuji, Yoshie Kabuto, and Keiko Murasugi
Parameter Setting in the L2 Acquisition of Reflexive Binding
- Barry C.-T. Yang
Intervention Effect in the Left Periphery

2月21日 言語学領域6大学コンソーシアム協定締結記念シンポジウム
人間文化研究科言語科学専攻主催（於：南山大学）

ケンブリッジ大学、コネチカット大学、ハイデラバード国立言語研究所、シエナ大学、国立清華大学、本学のコンソーシアム協定締結を記念して言語学領域でシンポジウムが行われた。ケンブリッジ大学の Ian Roberts 教授、ハイデラバード国立言語研究所の K.A. Jayaseelan 教授、清華大学の W.-T. Dylan Tsai 教授による講演の後、シエナ大学の Luigi Rizzi 教授による基調講演が行われた。100名近い参加者があった。

(21日)

13:00 *Opening Remarks*

13:30 Ian Roberts

Structure and Linearization in Disharmonic Word Orders

K.A. Jayaseelan

The Left Periphery of vP

W.-T. Dylan Tsai

Self and Wh

17:00 Luigi Rizzi

Criterial Freezing, EPP and ECP Effects

3月2日～7日 協定校ベルリン自由大学（ドイツ）を訪問

本学大学院生・齊藤一夫氏がベルリン自由大学の大学院生 Berthold Frommann 氏との共同研究を進めるため、協定校ベルリン自由大学を訪問した。また、鎌田修本学教授も同行し、ベルリン自由大学・山田ボヒネック頼子教授と本事業の今後の計画を話し合った。

3月9日～12日 協定校国立清華大学（台湾）を訪問

共同研究推進のため、本学大学院生2名（瀧田健介氏、渡邊恵理子氏）が協定校国立清華大学を訪問した。また本学教員（斎藤衛教授、藤井友比呂嘱託講師）も今後の事業計画を話し合うため、同校を訪問した。

3月10日～11日 国立清華大学/南山大学共同ワークショップ

国立清華大学主催（於：国立清華大学）

本学からの大学院生2名、教員2名の訪問を受けて、国立清華大学がワークショップを台湾・新竹市のキャンパスで開催した。"Formal Syntax and Object Fronting" をテーマに清華大学の教員1名、大学院生3名と本学教員1名、大学院生2名が研究発表を行い、今後の共同研究の課題が提案された。台湾内外から約30名が参加した。

(10日)

9:30 Mamoru Saito

N'-ellipsis and the Structure of Noun Phrases in Chinese and Japanese

10:45 Kensuke Takita

Chinese is Head-initial. How about Japanese?

13:30 Liching Livy Chiu

A Feature-based Analysis on Argument Realization – The Example of Gei-Construction in Chinese

14:45 Jiewu Wei

Transitivity and Aspect in Mandarin Chinese

16:00 Eriko Watanabe

UG and Second Language Acquisition – The L2 Acquisition of Reflexive Binding

(11日) *Forum on Object Fronting*

9:30 Barry Yang

Object Shift and Focus Movement

Dylan Tsai

Commentaries



3月24日～31日 協定校コネチカット大学（アメリカ）を訪問

共同研究推進のため、本学大学院生2名（瀧田健介氏、富士千里氏）が協定校コネチカット大学を訪問した。本学教員2名（村杉恵子教授、藤井友比呂嘱託講師）も事業計画の話し合いのため、同校を訪問した。大学院生は、コネチカット大学のセミナーや授業にも参加し、村杉教授は、講演とコネチカット大学の大学院生の研究指導も行った。

3月27日～30日 協定校ニューサウスウェールズ大学（オーストラリア）を訪問

本学大学院生・川崎直子氏がニューサウスウェールズ大学の大学院生との共同研究を提案するため、同大学を訪問した。また坂本正本学教授も、今後の事業計画を打ち合わせるために同校を訪問した。

2007年（平成19年）度

4月30日～5月3日 協定校ケンブリッジ大学（イギリス）を訪問

共同研究推進のため、本学大学院生2名（瀧田健介氏、須川精致氏）が協定校ケンブリッジ大学を訪問した。また、本学教員4名（斎藤衛教授、村杉恵子教授、鈴木達也教授、藤井友比呂嘱託講師）も今後の事業計画を話し合うために同校を訪問した。

5月1日 **The First Cambridge-Nanzan Syntax Workshop**

ケンブリッジ大学主催 (於：ケンブリッジ大学)

本学の訪問を受けて、ケンブリッジ大学がワークショップを開催した。ケンブリッジ大学と本学の教員、若手研究者、および近隣大学の教員が研究を報告し、意見交換を行った。19名が参加した。

10:15 Anders Holmberg

*The Question Particle
in Finnish*

11:15 Tatsuya Suzuki

*On the Structure of
English Gerunds*

14:00 Tomohiro Fujii

*A 'Non-obligatory
Control Complement'
Puzzle*

15:00 Theresa Biberauer

*On the Universality of
the EPP: Perspectives
from Germanic and
Beyond*

16:30 Mamoru Saito

*PBC as a Condition on
Overt and Covert Merge*

UNIVERSITY OF CAMBRIDGE Faculty of Modern & Medieval Languages

Home & Search Prospectus Faculty Subject Areas Courses Facilities Grad Studies

Department of Linguistics

THE FIRST CAMBRIDGE-NANZAN SYNTAX WORKSHOP

Tuesday 1 May 2007
Sidgwick Hall, Newnham College, Cambridge

Programme

10.00 - 10.15:
Welcome - Ian Roberts (Cambridge)

10.15 - 11.15:
Anders Holmberg (Newcastle) - The question particle in Finnish

11.15 - 12.15:
Tatsuya Suzuki (Nanzan) - On the structure of English gerunds

12.15 - 12.45: Discussion

12.45 - 14.00: LUNCH BREAK

14.00 - 15.00:
Tomohiro Fujii (Nanzan) - A 'non-obligatory control complement' puzzle

15.00 - 16.00:
Theresa Biberauer (Cambridge) - On the universality of the EPP: perspectives from Germanic and beyond

16.00 - 16.30: TEA/COFFEE BREAK

16.30 - 18.00:
Mamoru Saito (Nanzan) - PBC as a Condition on Overt and Covert Merge

18.00 - 19.00: Roundtable discussion

5月3日～7日 協定校シエナ大学（イタリア）を訪問

共同研究推進のため、本学大学院生3名（瀧田健介氏、須川精致氏、伊藤敦司氏）が協定校シエナ大学を訪問した。また、本学教員4名（斎藤衛教授、村杉恵子教授、鈴木達也教授、藤井友比呂嘱託講師）も今後の事業計画を話し合うために同校を訪問した。

5月4日～5日 **Workshop on Romance-Japanese: Comparative Syntax and Language Acquisition**

シエナ大学主催 (於：シエナ大学)

本学の訪問を受けて、シエナ大学がワークショップを開催した。テーマは比較統語論と言語獲得で、ケンブリッジ大学、コネチカット大学、本学からの教員・大学院生を含む計8名が研究発表を行い、今後の共同研究の可能性を討議した。参加者数は35名であった。

(4日)

9:30 Atsushi Ito

Honorification in Japanese and Lexical Decomposition

10:30 Ian Roberts

Movement Past-Participle Agreement and Defective Phases

12:00 Valentina Bianchi

Focus and Backward Anaphora: A Top Down Approach Based on Schlenker (2005)

15:00 Kensuke Takita

Chinese is Head-initial. How about Japanese?

16:15 Mamoru Saito

Radical Reconstruction and the First Position Effects

(5日)

9:30 Andrea Calabrese

What Happens When We Try to Learn Unfamiliar Sounds? Remarks on the Interface between Language Perception and Grammar

11:00 Simona Matteini

On the Morphosyntactic Acquisition of the German DP by Italian Adult L2 Learners: Possessive Constructions, NP Placement and Inflectional Morphology on Nominal Modifiers

12:00 Keiko Murasugi

Intermediate Acquisition Stages: A View from Japanese



6月22日～25日 コネチカット大学/南山大学コンソーシアム集中講義

人間文化研究科言語科学専攻主催（於：南山大学）

コネチカット大学の Željko Bošković 教授、Susanne Wurmbrand 教授と本学の斎藤衛教授、有元將剛教授が共同で「極小理論の諸問題」に関するセミナーを担当した（科目名「言語理論研究 A」）。コネチカット大学の大学院生6名（Duk-Ho An氏、Natalia Fitzgibbons氏、Ana Bastos氏、田口茂樹氏、田中拓郎氏、澤田剛氏）、本学の大学院生6名を含む19名が参加し、担当教員による講義の後、参加者全員でディスカッションを行った。

6月24日、26日 コネチカット大学/南山大学共同ワークショップ

人間文化研究科言語科学専攻主催、言語学研究センター共催（於：南山大学）

"Minimalist Syntax"をテーマに協定校コネチカット大学と共同でワークショップを開催した。本学大学院生3名による発表を含む9件の研究発表を行われ、21名が参加した。共同研究の課題がいくつか提案され、全体ディスカッションでは比較言語研究の具体的なテーマの検討がなされた。

(24日)

9:30 Ana C.P. Bastos

The Brazilian Style of the Multiple Subject Constructions

- 10:45 Shigeki Taguchi
*Against the Null
Complementizer Analysis*
- 11:45 Chisato Fujii, Tomoko Hashimoto
and Keiko Murasugi
*Intermediate Stages in the
Acquisition of the Japanese
Potential Construction*
- 13:45 Natalia Fitzgibbons
*Freestanding Negative
Concord Items in Russian*
- 14:45 Kensuke Takita
*Order in Narrow Syntax and
PF*
- 16:00 Duk-Ho An
Lower Copy Pronunciation and Multiple Wh-Fronting in ATB Contexts



(26 日)

- 9:15 Tsuyoshi Sawada
Da-Deletion: Classification of Clause-final Elements in Japanese
- 10:15 Eriko Watanabe
The Overgeneration of Dative Subjects in Child Japanese
- 11:30 Takuro Tanaka
Aspectual Restriction for Floating Quantifiers

7 月 21 日～22 日 国立清華大学/南山大学共同ワークショップ

人間文化研究科言語科学専攻主催、言語学研究センター共催（於：南山大学）

国立清華大学と本学が共同で理論言語学に関するワークショップを開催した。本学の大学院生 1 名、清華大の大学院生 2 名を含む 5 名が研究発表を行い、本学、清華大学あわせて 14 名が参加した。全体ディスカッションでは斎藤衛本学教授から共同研究のテーマがいくつか提案された。大学院生はグループに分かれてディスカッションを行い、それぞれのテーマを追究した。

(21 日)

- 13:00 T.-H. Jonah Lin
*Finiteness of Clauses and Raising of Arguments in
Mandarin Chinese*
- 14:00 Liching Livy Chiu
Licensing Conditions for Island Repair

(22 日)

- 10:00 Kensuke Takita
*Proper Binding Effect as a Consequence of Cyclic
Linearization*
- 11:00 Barry C.-Y. Yang
Two Types of Intervention Effects
- 13:30 Tomohiro Fujii
*Multiple Subjects/Objects, External Inalienable
Possession, and the Role of Doubling*



8月1日 同徳女子大学校/南山大学共同ワークショップ

人間文化研究科言語科学専攻主催（於：南山大学）

同徳女子大学校と本学が共同で日本語教育に関するワークショップを開催した。本学大学院生5名と同徳女子大学校大学院生2名が研究発表を行い、ディスカッションでは活発に意見が交わされた。20名が参加した。

- 9:45 齊藤 一夫
「初級日本語教科書における終助詞『ね/よ』の提出・説明・翻訳が示唆する中国人学習者の習得上の問題」
- 10:15 川崎 直子
「フィードバックに対する教師と学習者の乖離現象」
- 10:45 金 璇姫
「初級教材において否定丁寧形『～ません』と『～ないです』の使用—大学の初級教材と一般初級教材の分析を中心に」
- 13:35 水口 里香
「日韓辞書分析の試み—ユーザーフレンドリーの観点から—」
- 14:15 徐 毓瑩
「日本語受身表現の習得—台湾人日本語学習者の場合」
- 14:45 古田 一恵
「ピア・レスポンスについての考察—ピア・フィードバックとビリーフに注目して—」
- 15:15 了戒 直江
「成人 JSL 学習者の日本語習得と日本語教育」



8月2日～4日 同徳女子大学校/南山大学コンソーシアム集中講義

人間文化研究科言語科学専攻主催（於：南山大学）

科目名は「言語習得論研究 A」。同徳女子大の李徳奉教授と本学の坂本正教授が共同で第二言語習得研究と日本語教育者の養成に関するセミナーを開講した。同徳女子大の大学院生2名（水口里香氏、金璇姫氏）、本学の大学院生14名を含む19名が参加した。担当教員が講義を行い、参加者全員でディスカッションをした後、両大学の大学院生は共同でフィールドワークを行った。

9月17日～19日 ケンブリッジ大学/ハイデラバード国立言語研究所/南山大学
コンソーシアム集中講義

人間文化研究科言語科学専攻主催（於：南山大学）

科目名は「統語論研究」。ハイデラバード国立言語研究所の K.A. Jayaseelan 教授、ケンブリッジ大学の Ian Roberts 教授と本学の青柳宏教授が共同で「項構造と機能範疇」に関するセミナーを開講した。ハイデラバード国立言語研究所の大学院生2名（Vineet Chaturvedi 氏、Paroma Sanyal 氏）、ケンブリッジ大学の大学院生1名（Edward Wilford 氏）、本学の大学院生6名を含む18名が参加した。担当教員による講義の後、参加者全員でディスカッションが行われた。

9月19日～20日 ケンブリッジ大学/ハイデラバード国立言語研究所/南山大学
共同ワークショップ

人間文化研究科言語科学専攻主催，言語学研究センター共催（於：南山大学）

ケンブリッジ大学、ハイデラバード国立言語研究所、本学が共同で理論言語学のワークショップを開催した。"Interface Conditions"をテーマとし、各大学の大学院生ら5名による研究発表に加え、ケンブリッジ大学 Ian Roberts 教授、ハイデラバード国立言語研究所 K.A. Jayaseelan 教授が研究発表を行い、共同研究の足がかりを提案した。参加者数は23名であった。

(19日)

- 13:30 Tomoko Kawamura
Adverbial Because-clauses as Focal Elements
- 14:40 Ian Roberts
Head Movement
- 15:50 K.A. Jayaseelan
An Alternative Way of Eliminating Labels

(20日)

- 9:30 Paroma Sanyal
Dislocated Directions to Stable Possessions: The Realization of Case
- 10:15 Edward Wilford
The Implications of a Split Lexicon for Grammaticalization
- 11:15 Seichi Sugawa
Ellipsis and Repair Effects
- 12:00 Vineet Chaturvedi
Participles: Passives and Adjectives



11月16日～19日 協定校同徳女子大学校（韓国）を訪問

共同研究推進のため、本学大学院生5名（齊藤一夫氏、徐毓瑩氏、川崎直子氏、了戒直江氏、渡邊恭子氏）が協定校同徳女子大学校を訪問した。また、本学教員（鎌田修教授、坂本正教授）も今後の事業計画を話し合うために同校を訪問した。

12月13日～19日 協定校国立清華大学（台湾）による招聘

共同研究推進のため、国立清華大学が本学大学院生2名（瀧田健介氏、富士千里氏）と本学教員3名（斎藤衛教授、村杉恵子教授、藤井友比呂囑託講師）を招待した。また、有元将剛本学教授と大学院生上田平安氏も共同研究と事業の推進のため同校を訪問した。14日には、斎藤教授、村杉教授を中心とする2グループに分かれて集中的に討議がなされ、共同研究が大きく進展した。

12月15日～17日 **International Symposium of the Cambridge-Connecticut-Hyderabad-Nanzan-Siena-Tsinghua Consortium for Linguistics**
国立清華大学主催 (於：国立清華大学)

本学に始まったコンソーシアム活動の引き継ぎの一環として、国立清華大学が協定校6大学の研究者を招聘してコンソーシアム協定に基づくシンポジウムを開催した。6大学の教員、大学院生による計21件の研究発表と10件のポスター発表が行われた。集まった大学院生、若手研究者は今後の共同研究の方向性を、教員は本事業終了後のコンソーシアム活動の継続方法について話し合った。約100名の研究者が参加した。

(15日)

9:00 Feng-Fu Tsao

Welcoming Speech

9:10 Chinfu Lien

How to Form How and Why: A Case Study on Some Question Words in Earlier Southern Min Texts

9:55 Chi-Ming Liu

Degree Modification of Adjectives in Mandarin Chinese

10:55 Ian Roberts

Argument-structure Alternations Fall out from the Theory of Movement

11:40 Dimitris Michelioudakis

The Person-Case Constraint and the Features of Double Objects in Greek and Romance

14:45 Yasuki Ueda and Tomoko Haraguchi

Plurality in Japanese and Chinese

15:45 Liching Livy Chiu

Focus Licensed Remnant and Repair of Movement Constraint by Deletion

(16日) *Panel on "Left Periphery vs. vP Periphery"*

9:10 Adriana Belletti

Active Peripheries: Uses of the VP Periphery

9:55 K. A. Jayaseelan

Remarks on the Two Peripheries

10:55 W.-T. Dylan Tsai

Ins and Outs: Evidence from Adverbials, Applicatives, Light Verbs, and Object Fronting in Chinese

11:40 Tomohiro Fujii

The Role of Higher Functional Heads in the Person Restriction in Japanese

14:00 Mamoru Saito and Kensuke Takita

Three Ways to Get to the vP Edge

14:45 Mythili Menon

Encoding Definiteness: Definiteness Effects and Alternatives

15:45 Luigi Rizzi

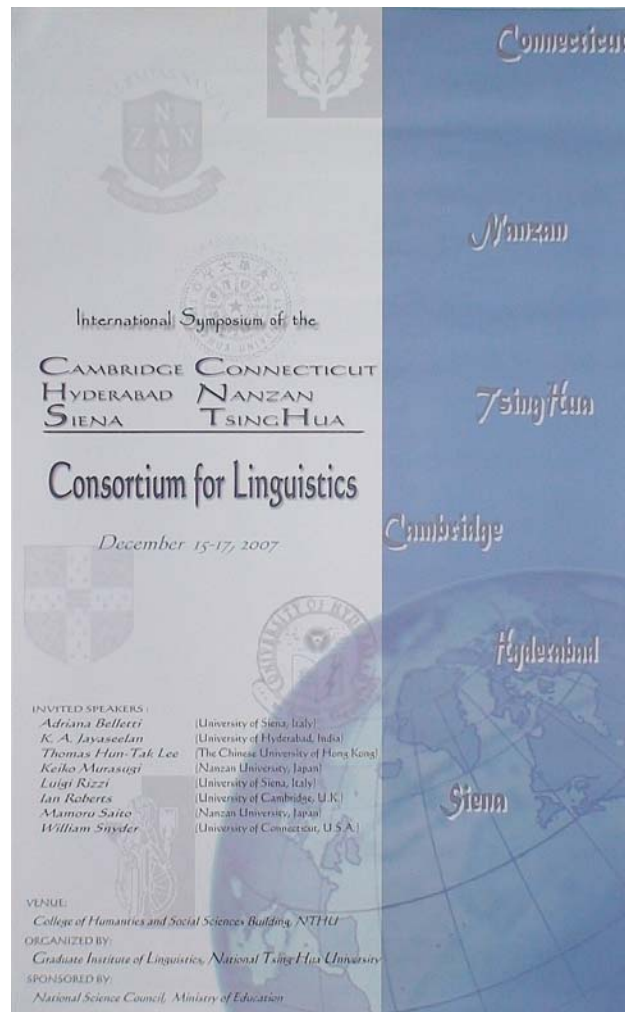
On Delimiting Movement

(17日) *Panel on "Universality and Variability in Early Child Grammar: Chinese, English, Italian and Japanese"*

9:10 Thomas Hun-Tak Lee

Nominal Structure in Child Mandarin and Child Cantonese

- 9:55 Yi-Ching Su
Word Order Variation and Children's Processing of Relative Construction
- 10:55 Keiko Murasugi
Null Functional Head Hypothesis for Language Acquisition
- 11:40 Koichi Otaki
A Note on Children's Acquisition of Comparative Morphology in English
- 14:00 Ida Ferrari
Notes on the Acquisition of D in Italian
- 14:45 Chisato Fuji
Aspect in Early Child Japanese: Evidence for Null Functional Head Hypothesis
- 15:45 William Snyder
Children's Passives: The Role of Minimality



1月24日～29日 協定校ハイデラバード国立言語研究所（インド）を訪問

共同研究推進のため、本学大学院生3名（瀧田健介氏、伊藤敦司氏、上田平安氏）が協定校ハイデラバード国立言語研究所（EFL大学）を訪問した。

1月25日～27日 **The Nanzan-Cambridge-Hyderabad Joint Seminar on Parametric Syntax and Acquisition**

ハイデラバード国立言語研究所主催（於：ハイデラバード国立言語研究所）

国立清華大学でのコンソーシアムシンポジウムに引き続き、インド・ハイデラバード国立言語研究所がコンソーシアム協定に基づくセミナーを開催した。本学からは大学院生3名（瀧田健介氏、伊藤敦司氏、上田平安氏）と斎藤衛教授が参加し、また協定校のケンブリッジ大学からも Ian Roberts 教授と若手研究員の Theresa Biberauer 氏が参加した。インド側からは、ハイデラバード国立言語研究所の教員、大学院生に加え、デリー大学、インド統計研究所 (Kolkata)、国立ネルー大学からも教員、大学院生が集まった。14件の研究が発表され、総勢40名程の参加者の間で統語現象、母語獲得に見られる言語間の違いとその普遍文法からの分析を中心に活発な討論が行われた。

(25日)

Mamoru Saito

Scrambling, Topicalization, and Strong Crossover: A Reply to Miyagawa 2006

Theresa Biberauer

A 'Third factor'-based Typology of (Dis)harmonic Languages

Kensuke Takita

A Linearization Approach to the PBC-effect and its Consequences

P. Madhavan

S-selection or C-selection: Remarks on Infinitival Clauses in Malayalam

Saurabh Kumar Mirsa

Gender in Hindi: A Preliminary Study

(26日)

Ian Roberts

Smuggling, Affectedness and Argument Structure Alternations

Atsushi Ito

Movement into Theta Positions and Numeral Quantifier Stranding

Yasuki Ueda and Tomoko Haraguchi

Plurality and Nominal Constructions in Japanese and Chinese

R. Amritaballi

Ergativity Splits and Clausal Structure

Shruti Sircar

Semantics-syntax Correspondences and the Acquisition of Locative Verbs

Leena Mukhopadhyaya

Acquisition of Motion Verbs in English



(27日)

Probal Dasgupta

Subjunctive-imperative Interface

Tanmoy Bhattacharya and Andrew Simpson

High and Low Goals in Bangla Ditransitive Constructions

Ayesha Kidwai

The Cartography of Phases: Fact and Inference in Meiteilon

1月30日～2月2日 シエナ大学/国立清華大学/南山大学合同特別セミナー

人間文化研究科言語科学専攻主催（於：南山大学）

言語学領域では阿部泰明本学教授を中心に、協定校のシエナ大学および国立清華大学の大学院生、本学の教員、大学院生が集まって言語学領域の合同セミナーが開催された。セミナーでは、Adriana Belletti シエナ大学教授の特別ビデオ講義、阿部教授の講義、そして清華大学の大学院生 Xin-Xian Rex Yu 氏、シエナ大学大学院生 Giulia Bianchi 氏の研究発表が行われ、全体ディスカッションも数回持たれた。シエナ大学大学院生4名 (Giulia Bianchi 氏、Giuliano Bocci 氏、Simone Guessier 氏、Vincenzo Moscati 氏)、清華大学の大学院生2名 (Hui Chin Joyce Tsai 氏、Xin-Xian Rex Yu 氏)、本学教員、大学院生14名が参加した。

1月30日～2月2日 ニューサウスウェールズ大学/南山大学コンソーシアム集中講義

人間文化研究科言語科学専攻主催（於：南山大学）

ニューサウスウェールズ大学のトムソン・木下千尋教授と本学の鎌田修教授が「学習者の自律を育てる日本語教育」と題し、合同セミナー（「言語習得論研究 B」）を行った。協定校のニューサウスウェールズ大学の大学院生1名（大原哲史氏）、ベルリン自由大学の教員1名（ボヒネック山田頼子教授）および大学院生2名（三輪聖氏、Berthold Frommann 氏）、同徳女子大学校教員1名（李徳奉教授）および大学院生2名（倉持香氏、西岡麻衣子氏）、本学の教員、大学院生、研修生18名が参加した。

2月2日～3日 シエナ大学/国立清華大学/南山大学共同ワークショップ

人間文化研究科言語科学専攻主催、言語学研究センター共催（於：南山大学）

シエナ大学、国立清華大学、本学が共同で言語学領域のワークショップを開催した。"Syntactic Theory and Language Acquisition"をテーマに各大学の大学院生8名が口頭発表を行った。また、清華大学 T.-H. Jonah Lin 教授と斎藤衛本学教授も研究発表を行い、共同研究のテーマを示唆した。25名が参加した。

(2日)

14:00 T.-H. Jonah Lin

Locative Subjects in Mandarin Chinese

Kensuke Takita

Cyclic Linearization, PBC Effects and Related Issues

Giuliano Bocci

On the Syntax-Prosody Interface: Evidence from Italian

H.-C. Joyce Tsai

On Gapless Relative Constructions in Chinese, Japanese and Korean

(3日)

10:00 Mamoru Saito

*Argument Ellipsis and (the
Absence of) Agreement*

Simone Guesser

*Embedded Null Subjects in
Brazilian Portuguese: Issues
Related to Movement to
Thematic Positions*

Atsushi Ito

*Movement into Theta Positions
and Numeral Quantifier
Stranding*

14:00 Eriko Watanabe

On the Case Errors in Child Japanese

Vincenzo Moscati

Against Isomorphism: Children's Interpretation of Negation and Modality

Tomomi Nakatani-Murai

On the Properties of Infant Vocalization in the Japanese Preverbal Stage



2月3日 ベルリン自由大学/ニューサウスウェールズ大学/同徳女子大学校/南山大学
共同ワークショップ 人間文化研究科言語科学専攻主催（於：南山大学）

協定校のベルリン自由大学、ニューサウスウェールズ大学、同徳女子大学校、および本学の教員と大学院生が集まり、共同で日本語教育領域のワークショップを開催した。ベルリン自由大学の大学院生2名、同徳女子大学校の大学院生1名、ニューサウスウェールズ大学の大学院生1名、本学大学院生4名の研究発表の後、4校の教員によるパネルディスカッションが行われ、日本語教師養成の現状と今後の課題について議論がなされた。約30名が参加した。

パネルディスカッション1

10:00 大原哲史

「社会文化論的授業分析：日本語学習者から日本語ユーザーへ」

10:30 三輪 聖

「ACTFL-OPI を通してみる継承語話者の口頭能力の特徴—ベルリン（ドイツ）における『継承日本語教育』確立へ向けて—」

11:00 川崎直子

「第二言語習得におけるフィードバックの役割について—ピア・インタラクションを通して—」

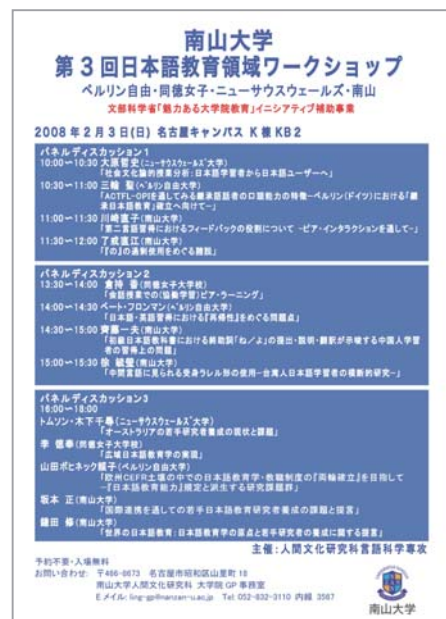
11:30 了戒直江

「『の』の過剰使用をめぐる諸説」

パネルディスカッション2

13:30 倉持 香

「会話授業での（協働学習）ピア・ラーニング」



- 14:00 ベート・フロムマン
「日本語・英語習得における『再帰性』をめぐる問題点」
- 14:30 齊藤一夫
「初級日本語教科書における終助詞『ね／よ』の提出・説明・翻訳が示唆する中国人学習者の習得上の問題」
- 15:00 徐 毓瑩
「中間言語に見られる受身ラレル形の使用—台湾人日本語学習者の横断的研究—」
- パネルディスカッション3
- 16:00 トムソン・木下千尋
「オーストラリアの若手研究者養成の現状と課題」
- 山田ボヒネック頼子
「欧州 CEFR 土壌の中での日本語教育学・教職制度の『両輪確立』を目指して—『日本語教育能力』規定と派生する研究課題群」
- 李 徳奉
「広域日本語教育学の実現」
- 坂本 正
「国際連携を通しての若手日本語教育研究者養成の課題と提言」
- 鎌田 修
「世界の日本語教育：日本語教育学の原点と若手研究者の養成に関する提言」

主な取り組みのまとめ

コンソーシアム科目	7回	
共同ワークショップ・シンポジウム	南山大学主催	海外協定校主催
	14回	5回
海外協定校訪問	9回（招聘1回を含む）	

